

事業コード	H19-建-継-06		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地方道路交付金事業費		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	一次改築(バイパス)		班 名	道路建設班 (tel) 018-860-2493
路線名等	(主) 鷹巣川井堂川線		担当課長名	加藤 修平
箇所名	北秋田市鷹巣 中岱		担当者名	伊藤 茂
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	04	施策名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備
	指標コード	02	施策目標(指標)名	県道改良率

1. 事業の概要

事業期間	H14 ~ H21 (8 年)		総事業費	49.7億円	国庫補助率	5.5 / 10	
事業規模	延長 L = 900m、幅員 W = 6.5 (13.0) m						
事業の立案に至る背景	主要地方道鷹巣川井堂川線は、北秋田市鷹巣の国道7号を起点とし上小阿仁村の国道285号に至る幹線道路であり、県北地区の高速交通拠点である「あきた北空港」や空港近傍の「大野台工業団地」へのアクセス道路として、経済・産業活動を支援する重要な路線である。また、同空港近くに設置される日本海沿岸東北自動車道「あきた北空港IC(仮称)」へのアクセス道路でもある。しかし、当該区間は旅行速度も14.7km/hと低く、車道幅員も5.0mと狭く、大型車のすれ違いや冬期交通の確保が困難な隘路となっているため、市街地の交通混雑解消と空港、高速ICへのアクセス向上を図るものである。						
事業目的	物流の効率化の支援(あきた北空港IC) 都市圏の交通円滑化の推進(旅行速度14.7km/h) 地域づくりの支援(市町村合併支援)						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	4,970,000	4,970,000	0			
	経費内訳	工事費	3,900,000	3,900,000	0		
		用補費	785,000	785,000	0		
		その他	285,000	285,000	0		
	財源内訳	国庫補助	2,733,500	2,733,500	0		
		県債	2,124,000	2,124,000	0		
その他		0	0	0			
一般財源	112,500	112,500	0				
事業内容	調査・設計 用地買収補償 改良工、橋梁工、舗装工	調査・設計 用地買収補償 改良工、橋梁工、舗装工					
事業の進捗状況	用地買収が完了し、現在橋梁工に着手している。平成19年度末には事業の進捗が約7割となる見込みである。						
事業推進上の課題	特になし						
関連する計画等	あきた21総合計画における「地域内交通ネットワーク・生活圏交流の整備」を支援する事業 日本海沿岸東北自動車道(あきた北空港IC(仮称))						
情勢の変化及び長期継続の理由	平成17年3月22日に鷹巣町・森吉町・阿仁町・合川町が合併し、北秋田市となった。						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	県道改良率					
	指標式	改良率(改良済延長/実延長)					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	68.8 %		データ等の出典	道路現況調査		
	実績値 b	69.5 %					
達成率 b/a	101.0 %		把握の時期	平成19年 8 月			

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	当該区間は「道路構造上の欠陥箇所数」が3箇所あり、幅員も5mと狭隘で旅行速度も14.7と低くなっている。 通学路指定区域であり早急な改良が必要である。	12点
緊 急 性	本道路は日本海沿岸東北自動車道「あきた北空港IC(仮称)」へのアクセス道路であり、市町村合併の支援道路としての機能も有する。 道路交通量調査の動向では増加傾向にあり、併せて狭隘で歩道もなく冬季交通にも支障や危険を伴っている。	12点
有 効 性	平成21年に北秋田市民病院が開院予定のため、救急医療施設のアクセス道路としての活用も見込まれる重要路線である。	23点
効 率 性	事業の費用便益比は2.60であり効率性は高い。 計画交通量も7500台/日となっている。 両側歩道の都市計画に対し、片側歩道の暫定計画によりコスト縮減を図っている。	20点
熟 度	用地買収が完了しており、橋梁工に着手していることから、計画通りの進捗である。	18点
判 定	ランク () あきた北空港ICや救急医療施設へのアクセス道路であり、整備後の有効性は高いことから引き続き実施すべきである。	85点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価

事業コード(H19-建-継-06)

適用基準名 道路改築事業(地域内・生活圏交通促進)

箇所名 (北秋田市鷹巣 中岱)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数	3箇所以上	8	8	
	・車道幅員 < 5.5m	2箇所	6		
	・最小半径 < 100m	1箇所	4		
	・最急勾配 > 5%	0箇所以上	0		
	・冬期堆雪巾なし				
	道路環境上の欠陥該当項目	5件該当	7	4	
	・現道の混雑度 1.0	4件該当	6		
	・現道の旅行速度 30km/h	3件該当	5		
	・現道の事故率 50件	2件該当	4		
・通学路指定で歩道なし	1件該当	2			
・重大交通事故が発生	該当項目なし	0			
計			15	12	
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無	あり	4	4	
	・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業	なし	0		
	市町村合併支援道路	位置づけあり	3	3	
		位置づけなし	0		
	交通量	増加している	3	0	
		増加していない	0		
特有の課題の有無	あり	5	5		
・老朽橋、災害危険箇所、 ・冬期通行不能区間等	なし	0			
計			15	12	
有効性	道路の位置づけ				
	生活圏30分形成道路等	該当する	7	7	
		該当しない	0		
	救急医療施設へのアクセス道路	該当する	7	7	
		該当しない	0		
	地域防災計画に重要な道路	該当する	7	0	0
	該当しない	0			
社会変化による事業の必要性	必要性が高い	9	9		
	低下傾向	6			
	必要性が低い	3			
計			30	23	
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比(B/C)	1.0以上	5	5	
		0.5以上~1.0未満	3		
		0.5未満	0		
	計画交通量	1,000台/日以上	5	5	
		500台/日以上~1,000台日/未満	4		
		300台/日以上~500台日/未満	3		
		300台/日未満	0		
コスト縮減	あり	5	5		
	なし	0			
事業中止による影響	既投資額の損失大	5	5	e t c 大規模バイパス e t c 部分的ミニバイパ e t c 現道拡幅	
	既投資額の部分的損失	4			
	既投資額の損失が少ない	3			
計			20	20	
熟度	事業の進捗進捗状況				
	事業の進捗(事業費)	8割以上完了	10	8	
		5割以上完了	8		
		1割以上完了	5		
		1割未満	2		
	用地買収の進捗(面積)	8割以上完了	10	10	
		5割以上完了	8		
	1割以上完了	5			
	1割未満	2			
	未着手	0			
計			20	18	
合計			100	85	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		